



2月の園だより



令和5年2月1日
目黒区立第二上目黒保育園園長

1月の初めに“新年子ども会”が行われ、全園児がクラス前に集まり、保育士が獅子舞を披露してくれました。獅子舞が登場すると泣いてしまう子もいましたが、今年1年間元気に過ごせるようにと一人ひとり、獅子舞に頭をかまれました。

幼児クラスではコマ回しを楽しんでいます。私が回したコマが勢いよく回っていると、自分も回したいという意欲がわくようで、コマの紐巻きから挑戦が始まります。できないと悔しい思いを経験しながら、何度も巻き方を聞きながら根気強く取り組みます。紐の巻き方ができるようになると、次はコマの持ち方とコマを放して紐を引くタイミングを獲得して回せるようになります。回し方のコツをつかめるよう、初めはコマと一緒に持ち放ちます。くり返し経験を積み、一人で回せるようになると満面の笑みでガッツポーズをしています。回せるようになると今度は友達に教えるようになります。こうして遊びが伝承されていくのです。伝承遊びでの人とつながりをもつなどを通して、子どもたちは学び合って互いに支え合うことができることで成長していきます。乳幼児期の子どもたちにとって伝承がつなぐものは“仲間とのつながり”、“大人とのつながり”です。遊びを通して仲間との関係が育ち合い、人との関わりをたくさん経験することで、一人ひとりの“心のつながりを大切”にしていきたいです。



節分
身体測定・避難訓練

～懇談会～
4歳児クラス
3歳児クラス

0・1・2歳児クラス 乳児のリズムの取り組み

つぼみ組(0歳児クラス)

保育室で保育士がリズム遊びの「うさぎ」の歌を口ずさむと、手を頭の上にあげ床を踏みながら跳びはねたりしています。繰り返しリズム遊びをする中で、いろいろなリズム曲も覚えてきました。安心できる環境の中で存分に体を動かし、楽しみながらリズムを行っています。

ちゅうりっぷ組(1歳児クラス)

駆け足が上手になり、“とんぼ”の曲に合わせて、手を広げ思いっきり走っています。バランスで止まったり、石に止まったりする様子を、保育士の動きを真似て、片足を上げようとしています。「ピッ」とポーズが決まると、顔を見合わせて嬉しそうにしています。

たんぼぼ組(2歳児クラス)

“うま”の曲が流れると、音楽のリズムに合わせて、四つ這いになり1歩1歩手足を前進させていきます。立ち上がり走る馬では、一生懸命ジャンプしようとする姿も見られます。保育士や友だちに「かっこいいねー」と言われたり、拍手をもらおうと嬉しそうな表情をし、伸び伸びと動いています。子どもたちが楽しみながら、自信をもって表現できるように関わっています。

3歳児クラスのお部屋でのお店屋さんごっこの様子

“ラーメン屋さんごっこ”のやりとりを、みんなで楽しんでいます。ラーメン屋さんになり「いらっしゃいませ」と言っている子がいたので、保育士がお客さんになりました。「なにがありますか」と聞いていると「わたしもやりたい」と他の子どもたちもやってきて、ラーメン屋さんは賑わいました。席はいっぱいになってもお客さんが来ると、ラーメン屋さんの子が「すみません。おきゃくさんが、いっぱいですて…」と本当のラーメン屋さんのようにお客さんに伝えます。それを聞いたお客さんも「わかりました。あいたらおしえてください」と本物のお客さんのように返事をして順番を待っていました。他の遊びの中ではお互いの主張がぶつかりケンカすることもあります。ごっこ遊びを通して友達とイメージを共有したり、ルールや決まりを守るなど社会性が育ってきてうれしく感じています。

※3歳児クラスは、4・5歳児クラスのお店屋さんごっこでお客さんになり、やりとりを楽しみます。



お店屋さんごっこの取り組み(4・5歳児クラス)



すみれ組

お店屋さんごっこに向けて、子どもたちが何屋さんをやりたいか、自分の意見を出し合う事から始めました。「あめをつくりたいからあめやさんがいい」「ぜったい、すしやをやりたい」と様々な意見が出てきます。しばらく話し合いを進めると「あ、あめやさんと、だがしやさんってふたつともおかしをうるところだから、いっしょにできるんじゃない」などと、子どもたちから思いがけない案が出てきて、いくつかのお店を合体させることになりました。そこで、今度は同じお店の友達2~3人と、どんな商品を作りたいのかの話し合いをしました。友達と話すことで、どんどんイメージが湧いてくる子どもたち。「こんなふうにチョコをつくらうといいとおもうんだけど」と絵を書いて分かりやすく知らせる姿もあります。「おりがみつきたいから、ちょうだい」「しろいふわふわしたかみがいい」「えのぐのいろは、もうすこしすくして」などと具体的に欲しい材料を保育士に伝えたり、自分のイメージを保育士に伝えてくれます。自分たちの作りたい物のイメージがはっきりしているからこそ、意欲的に取り組めるのだと成長を感じました。また「ここ、難しいな。どうすればいいかな」と作り方に悩む声が聞こえてくると「どれどれ」と周囲にいる友達が自然に声を掛け、一緒に考えてくれます。それでも、難しい時には「せんせー」と保育士の手も借りながら、自分で作り上げる事が楽しくて仕方ない子どもたちです。

ひまわり組

みんなが楽しいワクワクドキドキするお店にしたいと、“スーパー銭湯”をすることにしました。行ったことのある友達が絵にしてどんな物があるかを説明してくれました。スーパー銭湯にある足湯コーナーに目をつけ「ほんとうの、おんせんみたいにしたんだけど」と子どもたちから保育士に相談がきました。「びしょびしょになると、ちいさいともだちは、ころんじゃうよね」とそこでビニール袋にぬるま湯を入れて試しに足をのせると、「あったかい」「きもちいい」とイメージが実現し満足そうにしています。湯上りには、「つめたいものが、さいこうだよ」と、みんなの好物のアイスクリームを準備し、紙粘土に絵の具を混ぜてアイスクリームデッシャーを使って作りました。「おいしそうーたべちゃいたいね」と作った物を手にして嬉しそうにしています。「そのあじ、どうやってつくったの」「おみせのひとがしている、かわいいエプロンもよういしないとね」と会話が弾んでいきます。ゲームコーナーの景品は「もらってうれしいおもちゃ」を折り紙で作っています。得意な子どもが先生になって教えてくれて「あれ、ここどうするんだっけ」「じゃあ、ほくがこのパーツつくるから、こっちのぶひんをつかってね」と子どもたちで力を合わせて進めていきます。「やっぱり〇〇くんは、おりがみめいじんだね」「〇〇くんも、やればできたじゃない」とお互いの良い所を認め合っていました。「おきゃくさんを、もっともつよこばせたい」というお店屋さんの目標に向かって、互いの意見やイメージを認め合い、お店屋さんごっこを成功させる為に友達と力を合わせて、充実感を味わえるよう進めています。